

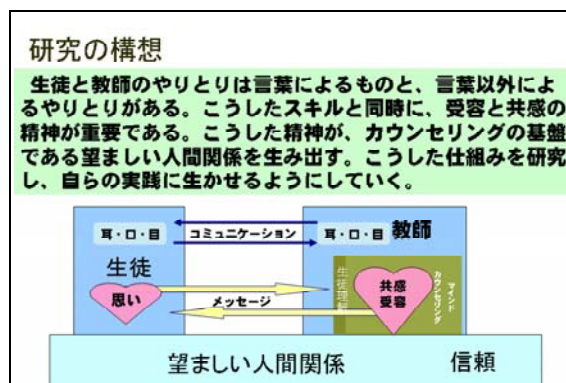
1 研究テーマ 教師と生徒の信頼関係をきずくために
～カウンセリングマインドを活用して～

2 はじめに

生徒や保護者が学校に対して信頼を持てるような働きかけをしなければならない。「生徒は先生の話をお聴くのがあたりまえ」という教師中心の考えは通用しない。そうした考えから、自分のコミュニケーションを見直し、生徒との接し方を考える研究に取り組んだ。時代の求める「信頼関係」をきずくために、悩みを解決するカウンセリングの技法や生徒との接し方を研究し、教育現場での活用を考えることにした。親和関係を基盤にしたカウンセリングは、クライアントの気づきを促し、共感と受容の理解から生徒の接し方を考える取り組みに対する研究となった。

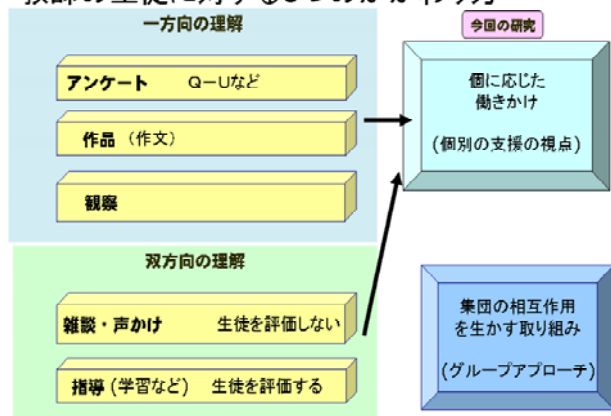
3 研究目的

教師は「ねらい」を持って生徒を指導する。しかし、生徒の実態を踏まえ「ねらい」に迫ろうとしすぎると、一方通行の指導になる。指導は、生徒が受け入れられる状態であるときはじめて指導となる。そのためには、生徒の思いを踏まえた双方向のコミュニケーションを意識することが必要である。それが、カウンセリングマインドによるレポートを意識したかわり方だ。カウンセリングの発想や技法を学校の現場で生かす研究である。



4 研究内容

教師の生徒に対する5つのかかわり方



生徒とのかかわり方を「アンケート」「作品」「観察」「雑談・声かけ」「指導」の5つに分類した。(左図参照) まず、一方向の理解群については、カウンセリングマインドを活用し、一体的に理解する取り組んだ。次に、双方向のやりとりから理解するときは、評価しない教育相談的なかわり方と、生徒を評価し指導していく授業のようなかわり方との2つで生徒理解に取り組んだ。

また、カウンセリングには様々なものがある。学校現場に相性のよさそうな、「非指示的なカウンセリング」「コーチング」「ブリーフセラピー」の3つを中心に研究した。カウンセリング理論とスキルも研究した。そして、カウンセリングマインドをつかう実践として、作文や観察アンケートを一体的に使う取り組みや、Q-Uを使った生徒理解に取り組んだ。



5 研究のまとめ

① Q-Uを使う生徒理解

理論やスキルを実践化するものとして、Q-Uを使った生徒理解の方法を研究した。「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」と「いごちのよいクラスにするためのアンケート」の2つのアンケートに観察を加え理解していく方法だ。アンケート項目の評価の低いものをチェックし、それから悩みや承認感を理解していくやり方である。個別の生徒それぞれに対して、どのような承認をするのか、どのように仲間づくりをするのか考えるのである。

② 作文を使う生徒理解

カウンセリングは傾聴のスキルを大切にする。聞いてもらえるという「安全・安心」の心を基盤にするからだ。そこで、作文の感想から生徒の欠乏欲求や様々な思いを取り出し分析する手法を考えた。カウンセリングは、悩みのように自分でコントロールできない情動を、コントロールできる言葉や行動を使いコントロールしているという側面がある。作文の中に自分のコントロールできない感情が、どのように表現されているのか調べることで、その生徒を理解しようとする試みである。

感情の表現については、「快」なのか「不快」なのかで分類することにした。加えて、それを誰の感情の表現なのかに分けることにした。

生徒の感情を想定し、その言葉を分類する。「快の感情」なのか「不快の感情」なのか区分が難しいときも、どちらかに分ける。その感情が、誰の思いを表現しているのか難しいときも、読み取って分けた。

運動会の作文を分析したのが右の3人分のシート。

<満足群の生徒C>

これは、「真面目」という言葉が、「快」の感情でも、「不快」の感情でも出てくる例である。最初、運動会の準備のため、「明るく」「テンションがあがって」いた。しかし、「キレて」、「機嫌が悪くなる」と、一緒にいた友だちは「恐怖」を感じて、「真面目」な表情になった。

最初の「真面目」は、その友達が頑張ったときの達成感の表現。下の2つの「真面目」は、不安と読みとった。同じ言葉が、「快の感情」にも「不快の感情」の両方に出るのだ。そのため、分析した本人にしか「なぜ、分けたのか」が分からない。また、「真面目」という言葉自体も感情を表しているのかどうか、曖昧な言葉でもある。

作文を読み返さなくても内容の推測ができ、友達の思いの分かる「満足群」の生徒のひとつの典型的な例であるという思いがした。

<分析の視点を変える場合>

作文を使う生徒理解 Part2

文化祭後の作文 生徒F	自分の思い (感情) We, I	自分以外の思い (感情) You, He等
7月 → 11月 非承認群 → 満足群	I 頑張った4回(達成感) I うれしかった4回(喜び) I 頑張らない4回(不快) I 弾きたい11回(願望)	
文化祭 ピアノ伴奏 教科係として教科の先生の 信頼も高い	I 弾けない1回(不安) I 弾きたくない2回(不快) I 弾かないといけない4回(義務感) I 心臓がばくばく1回 (高揚感) I 緊張1回(高揚感)	

「快」・「不快」の感情に代えて、「肯定的」と「否定的」の感情に分ける。また、誰の思いなのかは、英語にして分けてみる。

職業体験 7月

生徒の作文

カウンセリングは、生徒の安全・安心の思いを満たすことで、思いを語らせ、気づきを促す

「快の感情」と「不快の感情」を分けることで、気持ちを考えるきっかけにする

無理やりでも分ける
・ 誰の思いなのか
・ 快と不快の感情

	自分の思い	自分以外の思い
快の感情	表作りの手順 No.1 ①感情や思いを表す言葉をチェック ②思いのある言葉を誰の思いかによって2分し、さらに、その思いが「快の感情」か「不快の感情」かによって、さらに分ける	
不快感情	書いてあった順に、しかも、同じ言葉であっても書き進んでいく	

↓
気持ちの流れがわかる

満足群 生徒C

	自分の思い	自分以外の思い
快の感情	明るく 面白い テンション上げ うれしい うれしい	真面目な顔
不快感情	キレて 機嫌が悪い	恐怖 真面目 真面目

○「真面目」がなぜ、快の感情と不快の感情の両方にあるのか
 「快」… 友達が頑張ったときの達成感の表現
 「不快」… 友達が不安になり、真面目な顔 → 作文の意味に読み取り、「快」の感情か「不快」の感情かを決める

○同じ言葉が何度でも出てくるが、感情の出た流れをみるため

満足群 生徒D

	自分の思い	自分以外の思い
快の感情		
不快感情	やりにくい 難しい 不安 迷惑 プレッシャー 残念 忙しい不安定	

不満足群 生徒E

	自分の思い	自分以外の思い
快の感情	楽になる 無事 良かった 良かった	
不快感情	緊張 心算 成順しない 不安 大変 つまづかない	

<不満足群の生徒E>

この生徒は「快の感情」で表現している言葉は、「無事」「楽になる」であり、不快の感情は「成功しない」「不安」「うまくいかない」である。これらの言葉には、自尊感情を感じる言葉がない。これとQ-Uで「学級生活不満足群」になったことをあわせると、この生徒の理解が、より進む。失敗の経験が度重なり、もう自尊心が育ちにくい状態になっていると考える。担任一人だけが承認していても、傷ついた自尊心を育てられない。この生徒の無力感を解放する取り組みを具体的に考える。

一人分を短いコメントにまとめることで、1ページに8人分を載せて、生徒同士を見比べたりすると、生徒の指導方針が見えてくる。

6 今後の課題

- ① 作文で理解したことをもとに、1次対応や2次対応などの支援に取り組む。
- ② カウンセリングスキルを用いて、より生徒の内面に迫る接し方を身につける。
- ③ 生徒主体の学習に取り組む。

7 おわりに

生徒を主体的に活動させるためには、生徒を理解して指導するということが不可欠である。カウンセリングマインドは、そんなときの様々なヒントがつかめる研究であった。